

市長は、10月～11月にかけて、市内6つの小学校で児童と一緒に給食を食べながら、意見交換を行っています。ある小学校で児童と話した感想について政策秘書課職員と話しました。

## 明るく、楽しい学校

学校を訪問した際、児童会の役員を務める子どもたちと話をさせてもらいました。子どもたちは、「明るく、楽しい学校にしたい！」と私に話してくれました。

そこで私が、「明るく、楽しい学校にするためには、どうしたらいいと思う？」と尋ねたところ、子ども達は、「うーん」と考え込んでしまいました。

私は、子ども達にこう話しました。



明るく、楽しい学校にするためには、「おはよう」「元気？」とあいさつをすること。あいさつをする人が増えることが、明るく、楽しい学校をつくる1歩だと思う。でも、あいさつをすることは、なかなか難しい。先生たちも、君たちには、あいさつをしても、職員室の中では、先生同士あいさつができていないかもしれません。

授業中には、先生の目を見て、うなずく。先生たちは、一生懸命、授業の準備をしてくれています。だから、みんなが目を見て、うなずいて聞いてくれると先生たちはうれしいし、「もっと、いろいろなことを子どもたちに教えたい、伝えたい」と思うはずです。

私が着ているオレンジベストは、あいさつをしたときに、相手があいさつを返してくれなかったら悲しいから、「この人はあいさつをする人」という目印が欲しいという意見があって、職員が話し合って作りました。私は、本当は、もっと格好いい恰好で、カッコ良く通勤したいけれど、職員が話し合って作ったものだから、毎日、このオレンジベストを着ています。

市役所に戻って、この話を職員に話したところ、「元気がない顔をしている人には、あいさつや声掛けをしにくい」と言われました。そんなときは、余分なこととは言わず、とにかく「おはよう」「こんにちは」と言うことです。そうすると相手は、「あ、私のことを気にしてくれている。私のことを見ていてくれる」と心強く思えます。

あいさつは、簡単なようで、本当に難しい。でも、一人ひとりが、あいさつをするようになれば、明るく、楽しい学校、地域が変わっていくはずですよ。

～市長の話を聞いて～

私は、少し前から、家からスーパーへ買い物に行くまでにすれ違う見知らぬ人にもあいさつができるようになりました。最初は、「あいさつして、返してもらえなかったら、恥ずかしいなあ」と思っていました。だんだんと「私の声が小さくて聞こえなかったんだ」と思えるようになりました。見知らぬ人からあいさつが返ってくると、うれしくなり、ちょっぴり幸せな気持ちになれます。こうしたことができるようになったのは、私が立派な“おばちゃん”になった証拠なのでしょう。

でも、そんな“おばちゃんパワー”こそが、まちを変えていく大きな力になると言われています。長久手で、もっと、もっと、おばちゃんが増えたらいいなと思います。